

普段やっていないことは、いざという時にできるわけがない！

## 全員参加の実践的な訓練を実現しよう！



東京地本は防災士の資格を取得した仲間が中心となり、現地踏査や自治体訪問を実施し、鉄道とバスの防災・減災対策に取り組んできました。

特に運車職場では、現地踏査を繰り返して実践してきました。新規配属者や転勤者に線区の特徴を伝えていくことはもちろんですが、月日が経つと現地の環境も変化するため、継続して取り組むことが重要です。

分会が作成したハザードマップについても、一度完成したら終わりではなく、踏査の度にチェックし、改良や再び一から作り直すことも実践してきました。

現地踏査に参加した仲間からは、現地を実際に確認することの重要性や、全社員を対象にした訓練の必要性が訴えられていました。

防災は事前対策が重要です。災害が発生した時には勝負がついており、災害が起きる前に何をできていたかで勝負が決まります。普段やっていないことは災害時にできるわけがありません。選ばれた人だけの形式的な訓練ではなく、全社員参加の実践的な訓練が必要です。

オリンピック・パラリンピックやインバウンド拡大政策によって、訪日旅行者がさらに増加するなど、環境はどんどん変化していきます。施策によって効率化された業務体制で災害時に対応していかななくてはなりません。

私たちは踏査活動を通じて「命を守る主体性」を醸成していくことが必要です。そして、全社員への実践的な訓練の実施と、地域と連携した具体的な防災対策の実現を求めて、職場から防災・減災の取り組みをつくりだそう！